07.12.6

参考資料 3

平成 18 年第２回化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会　議事要旨

Ⅰ　日時：平成 18 年 10 月 31 日（火）　16：00～18：00

Ⅱ　場所：厚生労働省（中央合同庁舎５号館）５階 共用第７会議室

Ⅲ　出席委員：有田芳子、井上達、岩本公宏、上路雅子、北野大（座長代行）、佐藤洋、高橋道人、立川涼、遠山千春、渡邉信
オブザーバー：青山博昭、井口泰泉、川嶋之雄
事務局：上田環境保健部長、青木環境安全課長、森下化学物質審査室長 他

Ⅳ　議題：
（１）作用･影響評価結果について
（２）基盤的研究の推進について
（３）野生生物の生物学的知見収集について
（４）国際協力事業について
（５）リスクコミュニケーションの推進について
（６）その他

Ⅴ　議事要旨：
（１）哺乳類試験体系合理化の検討について報告･説明が行われた。
【委員からの主な意見】
・ 現実にポジティブコントロールがどのように出るのか、極低濃度でもポジティブコントロールが出るような強いものを使い、この試験法を行うとどうなるのかということを、並行もしくは先立って見ておく必要がある。
・ 無影響量の算定ができるということだが、これをＥxＴＥＮＤ2005 の中でどう使っていくのか。今後分科会等で議論すべき。
（２）フィージビリティースタディーの公募及び採択結果について報告･説明が行われた。
【委員からの主な意見】
・ フィージビリティースタディーの採択に関してはこれでよいが、環境ホルモン問題は長期間に発現するため、長寿命の動物や次世代問題を考慮すべき。
・ 化学物質の影響のみならず環境要因等も含めて評価して欲しい。
（３）「生態系を把握するための野生生物の知見全国大会」について報告･説明が行われた。
【委員からの主な意見】
・ 参加者へＥxＴＥＮＤの事業の意義が浸透していない。今後の課題として欲しい。
・ こういう大会は今後の化学物質対策、野生生物への影響の知見を広めるためにも非常に重要な問題。今後の発展のために、アンケートで、「参

加したくない」という方の原因について検討して欲しい。

- この事業について、環境省で行うことには大変意味はあるが、環境ホルモンの予算の中でこれをやることについての妥当性は若干疑問。
- ＥｘＴＥＮＤ2005 に、「地域レベルでの継続的な野生生物の観察」が重要と書いてあるので、実行することを前提に話すと、大会はできるだけ公開で行うべき。さらに、野生生物観察者ネットワーク作りに環境省が積極的に後押しする方が良い。

（４）平成 18 年度の日英共同研究、日米二国間協力について報告･説明が行われた。

（５）平成 18 年度のホームページの運用と更新状況及び平成 18 年度国際シンポジウムについて報告･説明が行われた。

【委員からの主な意見】

- かなりの額を使ってシンポジウムを開くわけで、コストパフォーマンスを考えると、もう少し大勢の方が参加しやすいようなところですべき。昨年から、環境ホルモン学会と合同開催をしなくなったため、この分野の研究者が両方に参加することが難しくなった。できるだけ研究者も大勢参加できるような形でのスケジュールを考えて欲しい。
- コミュニケーションは情報を出す側と受けとめる側の双方向でなければ成り立たない。一方的に環境省の宣伝をする、ということでは、コミュニケーションにならない。可能な限り徹底的に情報公開するということがまず出発点。コミュニケーションするなら皆さんができるだけたくさん参加できるところでやるべきなのに、釧路でやるのはディスコミュニケーション。
- 国際シンポジウムのパネル展示においては、様々な環境ＮＧＯ、あるいは野生生物のネットワークグループの方々も一緒に入っていけるような仕組みにして欲しい。

（６）化学物質対策におけるＥｘＴＥＮＤ2005 の位置づけ、今後の展望について報告･説明が行われた。

【委員からの主な意見】

- 環境ホルモンに対する環境省の考え方がよくわかった。基本的にはよく検討されているプログラムなので、具体的な成果が上がるのを期待している。ただ、ミックスハロゲンみたいに塩素と臭素の入っているような化合物は高度な分析技術と高い機械が必要。そうすると、国が税金を投入しないと実態把握できないので、今後の課題として受けとめ、具体化して欲しい。
- ＥｘＴＥＮＤ2005 における各取組の展開というのは、わかりにくいというのが正直な印象。ＥｘＴＥＮＤ2005 を進めることによって、例えば一つの目標として５年先ぐらいにどういう結果を出そうとしているのかというのが見えた方がよい。